（授業報告ノート）

模擬結婚式の企画運営を通じた学びの実践
～にちぶんブライダルプロジェクト 2022～

谷口重徳[1]、橋本裕之[2]、田中尚孝[3]、津田なおみ[4]

１．はじめに

本稿は、2022 年度に実施した「にちぶんブライダルプロジェクト 2022」の取り組みに関する活動報告である。

にちぶんブライダルプロジェクトは、模擬結婚式の企画・運営を通じ、ブライダルなどの式典の場面で求められるホスピタリティや司会進行のためのアナウンス能力の学びを深める参加・体験型学習プログラムの総称であり、学生が新郎新婦役、親族役、立会人役、ディレクター役、司会進行役、サービス役などの様々な役割を行いながらブライダルへの理解を深めることに特徴がある。学生は本プロジェクトへの参加を通じ、教室での学びを経験知と重ね合わせ、自身の成長につなげることができる。そしてこの活動を通じて、本プロジェクトは日本語日本文化学科の特色ある教育プログラムの一つとして発信力を有する取り組みへと発展してゆく可能性を持つ。

2021 年度に本プロジェクトを試行的に実施した成果[5]を踏まえ、2022 年度はさらに参加学生の実践力を高めるべく、様々な工夫を試みた。とくに模擬結婚式については、2021 年度はスタジオ内において関係者だけによる実施と撮影であったのに対して、2022 年度は 7 月 16 日に開催されたオープンキャンパス当日に来場者の列席という状態で実施した。参加学生にとって模擬結婚式の準備と運営は大きな挑戦となった。

２．2022 年度のプロジェクトのねらい

日本語日本文化学科では 2023 年度からのカリキュラム改訂において授業科目とは別に、プロジェクト型学習プログラムが導入される。そこでは、学生主体で編成したプロジェクトチームが、担当教員のサポートを受けながらも、主体的に課題に取り組み、その成果を様々な機会に発表することで実践力を育成することをめざしている。また、一連のプロジェクトに参加した学生に対して、就職活動などキャリア活動の一助となるように学科

---

[1] 文学部日本語日本文化学科准教授
[2] 文学部日本語日本文化学科准教授
[3] 文学部日本語日本文化学科准教授
[4] 文学部日本語日本文化学科講師

[5] 谷口重徳、橋本裕之、津田なおみ、2022 年「（授業報告ノート）模擬結婚式の企画運営を通じた学びの実践」『甲南国文』69 号、甲南女子大学国文学会、193(16)-188(21)。

独自の認定証を授与する。

今年度のにちぶんブライダルプロジェクト 2022 は、こうした 2023 年度からの新カリキュラムの方針を先取りする形で実施された。今年度のプロジェクトでは、模擬結婚式の企画・運営を通じ、ブライダルなどの式典の場面で求められるホスピタリティや司会進行のためのアナウンス能力の学びを深めるという前年度からのねらいを引き継ぎながら、学生の実践力を高めていくことをめざした。そのために、模擬結婚式の運営、演出に際して学生の主体性を引き出だすことに注力した。前年の模擬結婚式はスタジオ内で関係者だけによって実施され、その様子を撮影するという方式であったため、式の進行の中で修正や撮り直しを行うことができた。しかし、今年度の模擬結婚式は、夏季オープンキャンパス当日（7 月 16 日）に来場者の列席という状態で実施した。本番では前年のようなやり直しができないため、前年以上に入念な準備と事前の進行確認が求められ、本番の緊張感も前年以上のものになった。それによってプロジェクトに参加した学生にとっては貴重な実践の場となった。

３．プロジェクトの概要

（１）全体の流れ

まず 5 月にブライダルをテーマとした特別授業を実施するとともに、参加学生を募り、5 月、6 月、7 月とミーティングを重ねた。模擬結婚式は、現代社会の価値観の多様化を考慮し、特定の宗教性を持たないシビルウェディング[6]方式で実施した。そして 7 月 16 日のオープンキャンパスにおいて来場者の列席の上で模擬結婚式を開催した。7 月 17 日のオープンキャンパスでは、前日の様子を画像で紹介し、8 月 6 日、8 月 7 日、9 月 4 日のオープンキャンパスでは模擬結婚式の様子を編集した動画を紹介した。さらに、12 月 3 日のオープンキャンパスでは動画とともに、参加学生によるプレゼンテーションを行った。

今年度のプロジェクトには 29 名の学生が参加した。また、プロジェクトの運営に際しては、外部団体との調整と模擬結婚式の司会進行などの助言については津田が、プロジェクトミーティングの運営については橋本と田中が、学内調整については谷口が、それぞれ役割を分担しつつも全員が協力しあって担当した。またプロジェクトの遂行に際しては、日本語日本文化学科構成員の協力と助言を受けた。

（２）関係部署との調整

今年度も一般社団法人全日本ブライダル協会[7]から事前の特別授業への講師派遣や模擬結

---

[6] シビルウェディングとは、全日本ブライダル協会が提唱する人前式で、結婚式の前に予め役所に婚姻届を提出し、その長が発行する婚姻届受理証明書を司式者が読み上げ、参列者一同に披露するセレモニーである。一般社団法人全日本ブライダル協会 HP （https://www.ajba-civil.or.jp/civil/civil01.html）、2022 年 12 月 20 日閲覧）。

[7] 一般社団法人全日本ブライダル協会公式サイト https://www.ajba-civil.or.jp（2022 年 12 月 20 日閲覧）

婚式での衣装や小物類のレンタル、そして模擬結婚式の運営助言など多岐にわたる協力を得た。とくに今年度は、模擬結婚式の新郎新婦の衣装レンタルに際し、全日本ブライダル協会から特別な配慮を頂き、午前・午後の二組分（計４名分）の準備を頂いた。模擬結婚式の様子を記録した動画については学外のクリエイターに撮影と編集を依頼した。

学内関係部署との調整については、模擬結婚式をオープンキャンパス当日に実施することから入試課との調整を行った。また模擬結婚式の会場として８号館撮影スタジオを使用することからIT・管財課から協力を受けた。さらに、情報発信のため広報課から協力を受けた。そして各種の手続きに際しては日文コモンルームを通じ、文学部・国際学部事務課と調整を行った。

（3）事前学習

今年度の本プロジェクトの始動に際し、学生のブライダルへの理解を深めるために外部講師による特別授業（講演会）を二回実施した。この特別授業の対象学生は、橋本ゼミ、田中ゼミ、谷口ゼミの３年生およびアナウンス入門受講者も含め希望のあった学生である。初回は５月 17 日に全日本ブライダル協会からゲスト講師（西村房子氏、櫻井まどか氏）による現代のブライダル事情とウェディングドレスをテーマにした講演会を実施した。また二回目は５月 24 日に株式会社神戸ポートピアホテル事業部長・吉備由佳氏によるブライダルコーディネーターの役割についての講演会を実施した。いずれも現在のブライダルの現場で活躍中の講師による講演であり、学生のブライダルに対する理解が深められた。

４．模擬結婚式の準備と実施

（1）準備の流れ

今年度の本プロジェクトでは、５月から参加学生の募集を行った。プロジェクト担当教員のそれぞれの授業の場やコモンルームでチラシを掲示するなどの告知により、ホスピタリティコースだけでなく、日本語日本文化コース、視聴覚コミュニケーションコースを含む 29 名の学生が参加した。

参加メンバーによる定例ミーティングを５月 19 日、５月 26 日、６月２日、６月９日、６月 16 日、６月 23 日、７月７日の木曜日の計７回、昼休みに学科コモンルームにて実施した。また７月 11 日に司会とミニスター担当のリハーサルを経て、模擬結婚式前日の７月 15 日に会場設営と全体リハーサルを行った。なお新郎新婦役学生の衣装合わせは６月下旬に行った。メンバー間の情報共有には、これらのミーティングと共に LINE アプリのグループ機能を用いた。

ミーティングでは、まずそれぞれの担当役割を決め、新郎新婦役４名、ミニスター役２名、司会役４名、介添え役６名、受付案内役９名、映像音楽担当２ 名、広報・記録担当４名、ゼネラルマネージャー1 名（兼任者有り）の構成とした。次に模擬結婚式での演出の

検討を重ねた。今年度の模擬結婚式では、オープンキャンパス来場者が列席されるため、来場者が参加可能な演出を検討した結果、学生の発案により、指輪交換の際に列席者全員がリボンを持ち、そのリボンに指輪を通しながら新郎新婦へ指輪を運ぶというリングリレーや退場する新郎新婦を列席者が見送る際に祝意を表するためのリボンワンズ（図１）などの演出を行うことになった。また、新郎新婦の見送りの際のフラワーシャワー（紙吹雪）の量を昨年度よりも大幅に増量することやエンディングロール映像を制作し、新郎新婦役の学生の子供の頃から現在までの画像に加え、模擬結婚式の準備の様子なども紹介することとした。そして、ミーティングと並行して準備に必要な物品の確保と結婚届受理証明書、新郎新婦からのメッセージカード、配布用プログラム、リボン、紙吹雪など小道具類の準備を行いつつ（図２）、それらの進捗状況の共有を随時行った。

図１　準備作業の様子

図２　リボンワンズ

（２）模擬結婚式の実施

今年度の模擬結婚式は、オープンキャンパスにおいて学科ごとに行われる体験授業の枠内で実施した。日本語日本文化学科の体験授業では、7 月のテーマを「ブライダルのホスピタリティ」（谷口重徳が担当）に設定し、午前の部と午後の部の二回実施した。それに伴い、新郎新婦役も午前の部と午後の部で交代した。午前と午後の部ともに用意した約 50 席が満席となった。

模擬結婚式の進行の概要は次のとおりである。まず体験授業の参加者に趣旨説明を行い、続けて模擬結婚式を開催した。それによって体験授業の参加者を模擬結婚式の列席者とすることができた。列席者への案内と会場への誘導には案内受付役の学生が対応した。

模擬結婚式の形式は、前年に続き、全日本ブライダル協会が提唱するシビルウェディングという人前式の形式で実施した。司会によるアナウンスに従い、ミニスター役、介添え役の学生が入場した後、新郎役学生の入場、そして新婦役の学生と新婦の父役の教員が入場した。ミニスターの進行により、開式の辞に続き、誓約、指輪交換、結婚契約書への署名、宣言、祝辞、閉式の辞へと至る流れである。新郎新婦の退場の際には、エンディングロールの映像を上映しつつ、列席者にリボンワンズ（午前の部）やフラワーシャワー（午後の部）に協力していただくことで、列席者にもイベントへ参加した気分を体感してもらえるようにした。最後に、新郎新婦をはじめ、全てのスタッフ学生が再度入場し、列席者

へお礼の挨拶を述べた。

（3）成果発表

8月6日、7日、9月4日のオープンキャンパスにおいて模擬結婚式の様子を編集した動画を紹介した。さらに、12月3のオープンキャンパスでは動画とともに、参加学生によるプレゼンテーションを行い、学生の視点から本プロジェクトの概要、準備作業の詳細、参加した感想などを来場者に紹介した。

いずれの機会でも、本プロジェクトに対して来場者から肯定的な評価を多く頂戴した。

6．プロジェクトの効果

（1）学びの効果

ホスピタリティ分野での接客場面やアナウンスでの司会進行場面などは、経験知の積み重ねが求められることから、プロジェクト型の学びは大きな教育効果を持つ。とくに今年度は模擬結婚式をオープンキャンパス当日の来場者の列席のもとで開催したことで、前年度のようなスタジオ収録による模擬結婚式以上の緊張感を体感する機会になった。また、ホスピタリティコースだけでなく日本語日本文化コース、視聴覚コミュニケーションコースの学生も参加していたため、所属ゼミやコースを超えた学生同士の交流を深めることができた。2022年度も新型コロナ禍により学外での臨地授業の実施に大きな制約を受けていることから、今回のプロジェクトは参加体験型の学びの機会を新たに確保できたという点でも非常に意義があった。

参加した学生からは、「オープンキャンパスで来場者の列席があることで、列席者の誘導や案内、そして感染症対策など、前年と違って考えておくべきことが多かった」、「来場者の方々の前での模擬結婚式に緊張しましたが、式の終了時にたくさんの拍手を頂き、大きな喜びを感じました」、「オープンキャンパス来場者の方々の笑顔を見ることができて良かった」、「イベントとして楽しかった」、「やりがい、達成感があった」、「主体性の大切さを痛感しました」など、ライブイベントを運営した経験からの充実感や達成感を得たことがうかがえる。また、「ゼミ、学年を超えた学生間のかかわりができたのが良かった」、「自分の知らない文化を知ることができた」というコメントのように、新型コロナ禍によって学生間の交流機会が少なくなっていた学生にとっても本プロジェクトが学生相互の関係性を構築する重要な機会になっていることがうかがえる。

（2）情報発信

模擬結婚式の様子は、前述のオープンキャンパスに加え、「学科ブログ（学科日誌）」（7

月 22 日記事[8] ／12 月 6 日記事[9] ）での紹介や「学科インスタグラム」（5 月 23 日、7 月 15 日、7 月 20 日 ）でも準備段階から当日の様子まで随時情報発信を行った。また 2024 年度入学者用『大学案内』にも関連情報を掲載する予定である。

オープンキャンパスなどで本学科に関心を持つ高校生・受験生から本プロジェクトに対して肯定的な反響が多々見受けられることからも、本学科の特色ある教育内容の一つとして今後も様々な機会に情報発信を試みたい。

７．課題と今後の展望

今年度の本プロジェクトでは、前年度の経験を生かしつつ、オープンキャンパス来場者の列席という新たな試みを行った。それによって模擬結婚式の演出上の工夫や準備作業の増加、当日のイベント運用など、参加学生と担当教員にとっても大きなチャレンジの場であったといえる（図 3、図 4）。

本プロジェクトの次年度の実施に際しては運営体制をさらに改善していきたい。準備段階での全体ミーティングと並行して役割ごとのミーティングと実作業時間を確保し、進捗状況を共有しながら運営の精度を向上させる必要があるだろう。また、企画運営段階から学生の創意工夫をより一層引き出していきたい。さらに、衣装のレンタルや小道具類の確保をいっそう充実させることにも引き続き取り組みたい。

前年度と今年度のプロジェクトを通じ、学生間に本イベントの認知が浸透し、学生からはさっそく次回プロジェクトへの参加希望の表明が寄せられている。本プロジェクトを本学科の特色ある教育プログラムの一つとしてさらに発展させられるように今後も鋭意取り組みたい。

本プロジェクトの運営に際し、日本語日本文化学科の先生方とコモンルーム、そしてIT・管財課、入試課、広報課には多大なご支援をいただいた。記して感謝申し上げる。

図３　午前の部を終えての記念撮影

図４　午後の部を終えての記念撮影

[8] 日本語日本文化学科 学科ブログ「7 月オープンキャンパス開催！」（2022 年 7 月 22 日）
https://www.konan-wu.jp/nanjo/blog/nisshi/entry.php?unid=5412dbac92134bfec16ba8e92d422321

[9] 日本語日本文化学科 学科ブログ「12 月オープンキャンパス開催！」（2022 年 12 月 6 日）
https://www.konan-wu.jp/nanjo/blog/nisshi/entry.php?unid=70b99b149a0a9fe40dce4d81d569ed2b